

令和2年度第1回浜松市森林・林業未来構想会議

次 第

日時：令和2年7月1日（水）午前10時～

場所：ホテルコンコルド3階「葵花葵」

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 会議スケジュールについて
- 4 議題
 - (1) 森林環境税及び森林環境譲与税の概要について
 - (2) 浜松市における森林環境譲与税の活用状況について
 - ① 令和元年度事業
 - ② 令和2年度事業
 - (3) 意見交換（現状把握、将来像等）
- 5 報告、連絡事項
 - (1) 次回について
 - (2) 新しい生活様式支援天竜材活用事業について
- 6 閉会

会議スケジュールについて

項目	令和2年度								
	7月			8月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
第1回	○7月1日 ・目的:環境譲与税説明と意識共有 ・内容:税の説明、意見交換								
第2回				○8月上旬 ・目的:事業提案 ・内容:グループワーク(分野別)					
第3回							○9月上旬 ・目的:活用計画への意見 ・内容:グループワーク、まとめ		
議会報告								○9月下旬以降 ・関係者報告	

※ 令和3年度以降は、進捗管理や事業提案等を目的に年1回程度開催

浜松市における森林環境譲与税 活用の概要

令和2年7月1日
浜松市産業部林業振興課

令和元年度森林環境譲与税活用事業

- 平成30年税制改正大綱で定める「間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用」、かつ、**増税で確保された財源であるため、新規事業、または、拡充事業(既存)に活用することを基本として計画**
- 令和元年度から開始された森林経営管理法に基づく「森林経営管理推進事業」や皆伐・再造林を進めるための「浜松型林齢平準化促進事業」等を実施
- **執行残金については、財政課と協議した結果、既存事業に充当**

〔 令和元年度森林環境譲与税活用事業 〕

(単位:円)

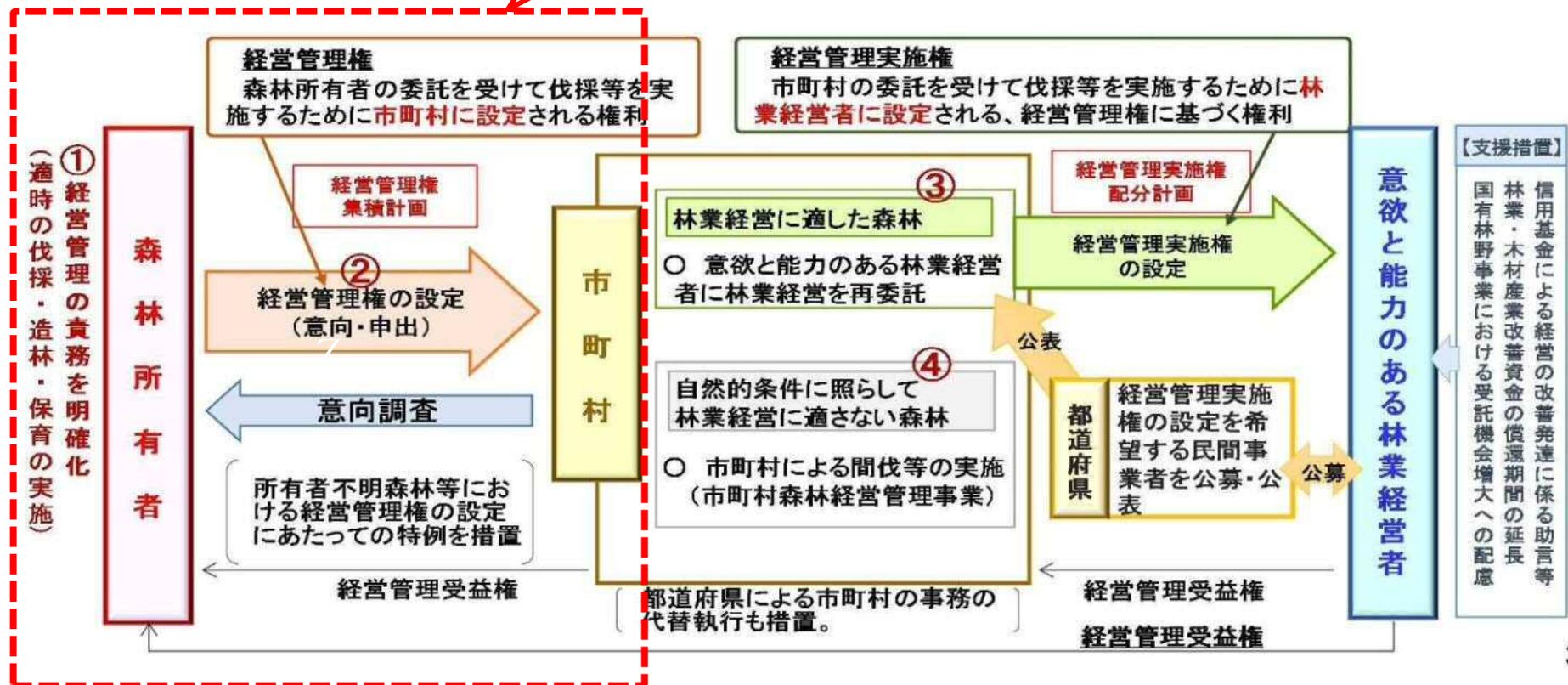
№	事業名	当初予算額		決算額(見込)		区分	備考
		予算額	うち充当額	決算額(見込)	うち充当額		
1	森林経営管理推進事業	46,616,000	46,616,000	14,278,000	14,278,000	新規	森林経営管理法に基づき実施
2	林業従事者助成事業	8,750,000	8,750,000	7,414,000	7,414,000	拡充	対象事業を拡充
3	林道維持補修事業	152,455,000	0	152,917,370	24,878,000	臨時	林道緊急補修工事(Aランク)
4	低コスト林業推進事業	50,000,000	0	49,817,000	16,163,000	既存	執行残金を充当
5	森林整備・林業振興事業(林業・木材産業成長産業化促進対策事業、浜松型林齢平準化促進事業)	22,129,000	22,129,000	16,036,000	16,036,000	新規	皆伐・再造林を支援
6	森林活用等都市間連携事業	2,130,000	2,130,000	1,119,000	1,119,000	新規	都市部イベントへの参加等
7	森林環境教育推進事業	2,000,000	2,000,000	1,960,200	1,960,000	新規	環境教育の受入団体を設立
8	FSC認証材利用拡大推進事業	8,022,000	6,788,000	7,999,760	7,513,000	新規	一部不足額を流用(838千円)
9	地球温暖化対策事業(環境政策課)	100,000	100,000	100,000	100,000	既存	
10	森林環境基金積立金(譲与税分)	31,887,000	31,887,000	31,887,000	31,887,000	—	
合計		324,089,000	120,400,000	283,528,330	121,348,000		

1 森林経営管理推進事業

- 本事業は、森林経営管理法に基づき、適切に管理されていない森林について、森林所有者の意向確認、経営管理権集積計画等の作成、同意の取得等を実施
- 森林経営計画樹立地が近接し、一体として森林施業が見込める森林を対象とし、経営管理権を設定せず民間事業者の森林施業を促進することを優先
→ 浜松市版「新たな森林管理システム」

【森林経営管理法の概要】

今回の委託範囲(経営管理権設定前まで)。経営管理権を設定せず、直接民間事業者の森林施業促進を優先することが浜松市版の特長。



1 森林経営管理推進事業

- 意向調査の実施結果は、森林所有者数:96人、面積:160.59ha
- うち、森林整備への同意は、63人、104.23ha (その他は森林整備内容の調整中 など)
- 森林整備の内容については、利用間伐が26人、65.67ha、保育間伐が41人、34.08ha
- 市町村森林経営管理事業の実施予定は、1人、4.48ha

【令和元年度実績】

No	地域	委託業者	森林所有者数【人】 (意向調査実施者)	調査対象面積【ha】 (簡易測量等実施地)	森林整備同意人数【人】	森林整備同意面積【ha】	(うち利用間伐【人】)	(うち利用間伐【ha】)	(うち保育間伐【人】)	(うち保育間伐【ha】)	(うち市町村森林経営管理事業【人】)	(うち市町村森林経営管理事業【ha】)	森林整備内容調整中【人】	森林整備内容調整中面積【ha】	その他【人】	その他【ha】
1	春野	春野森林組合	18	53.73	3	9.49	1	5.86	2	3.63	0	0.00	9	39.00	6	5.24
2	龍山	龍山森林組合	44	42.38	44	42.38	11	14.11	36	28.27	0	0.00	0	0.00	0	0.00
3	天竜	天竜森林組合	9	32.15	9	32.15	8	29.97	3	2.18	0	0.00	0	0.00	0	0.00
4	引佐	引佐町森林組合	25	32.33	7	20.21	6	15.73	0	0.00	1	4.48	8	10.60	1	1.52
			96	160.59	63	104.23	26	65.67	41	34.08	1	4.48	17	49.60	7	

- ※ 利用間伐及び保育間伐については、すべて委託業者が森林整備を実施(一部下請けあり)。
- ※ 天竜は利用間伐と保育間伐の重複者がいるため「森林整備同意人数<(うち利用間伐同意人数+うち保育間伐同意人数)」。
- ※ 龍山は利用間伐と保育間伐の重複者がいるため「森林整備同意人数<(うち利用間伐同意人数+うち保育間伐同意人数)」。

2 林業従事者助成事業

- 林業従事者が安全に作業のできる環境を整え、林業従事者の定着と新規就業者の確保を目的に実施
- 安全装備品の購入等
 - ・ 助成林業従事者数:189人(防護ズボン、安全靴、ヘルメット 等)
- 新規就業者の給料及び手当金を助成
 - ・ 助成新規就業者等数:19人



【 補助金を活用して購入した安全装備品 】



3 林道維持補修事業

- 令和元年11月、林道の陥没が起因の事故が発生したため市内林道の調査を実施
- 調査結果により、早急に補修工事が必要な路線・個所(Aランク)の緊急工事を実施
 - ・ Aランク:9箇所、108m(今回実施)
 - ・ Bランク:26箇所、330m(R2年度実施)
 - ・ Cランク:26箇所、364m(R2年度実施)



【 下線沿林道の洗堀部分等の修繕を実施 】



4 低コスト林業推進事業

- 木材生産の低コスト化と生産力の向上を図るため、森林所有者がFSC認証林内で行う林内路網等の整備を支援
 - ・ 作業道開設: 7件、4,182m
 - ・ 作業路開設: 38件、18,564m
 - ・ 作業道修繕: 37件、15,572m
 - ・ 索道設置・撤去: 3件、13,430m



【 索道設置 】



【 作業道開設(上:開設前、下:開設後) 】



5 森林整備・林業振興事業 (林業・木材産業成長産業化促進対策事業、浜松型林齢平準化促進事業)

【 林業・木材産業成長産業化促進対策事業 】

- 林齢適齢期に達した森林の主伐に関する再造林等を支援

- ・ 皆伐面積: 3.16ha、材積: 1,223 m³

【 浜松型林齢平準化促進事業 】

- 主伐された木材の搬出費用を支援

- ・ 皆伐面積: 15.36ha、材積: 7,450 m³



【 皆伐における木材搬出 】

6 森林活用等都市間連携事業

- 首都圏の大都市等との連携推進により、森林・林業への理解を深めてもらい天竜材の販路拡大に繋げることを目的に実施
- 首都圏開催のイベントに参加し、天竜材(FSC認証材)や天竜美林をPR
 - ・ 10/5:「川崎駅前優しい木のひろば」に浜松市ブース出展



【川崎駅前で天竜ヒノキを使用したマイ箸づくりワークショップを実施】



7 森林環境教育推進事業

- 市内外を問わず幅広い世代、団体等を対象にした森林環境教育の受入体制を整備することを目的に実施
- 受入団体「天竜こころの森ネットワーク」が設立するとともにPRパンフレット「みんなの天竜の森入門」を作成
 - ・ 10/17:和光高等学校(22名)を受入
 - ・ 11/16:「なかのエコフェア2019」に浜松市ブース出展



【首都圏高校の林業体験受入】



【なかのエコフェアでの体験講座】

8 FSC認証材利用拡大推進事業

- **天竜材(FSC認証材)の地産外商の積極的な推進**により、新たな利用価値を創出し、天竜材(FSC認証材)の利用拡大に繋げる
 - ・ 11/13～15:ジャパンホームショー出展
 - ・ FSC認証材PRラッピングバスの運行
 - ・ 天竜材使用ノベルティグッズの制作



【丸太がモチーフのラッピングバス
天竜材が東京2020大会関連施設で使用されることなどをPR】



【浜松市ブースでの
展示・説明】



【天竜材(FSC認証材)で作製したノベルティ
(左:コースター、右:お箸)】

9 地球温暖化対策事業(環境政策課)

- **市域の温室効果ガス排出量を算定**し、増減要因を分析することで、今後の削減目標達成に向けた必要施策の検討資料収集を目的に実施
- 2017年の森林吸収量は、405.5千t-CO₂で、**2005年度以降、減少傾向**

令和2年度森林環境譲与税活用事業

- 令和2年度は、**森林環境譲与税が倍増**(R1:120,400千円→ R2:257,000千円)
- これに伴い、天竜材(FSC認証材)の利用拡大に向け、**ぬくもり空間創出事業の拡充**や**浜松こども館での天竜材利用に関する事業を実施**
- また、緊急的な林道補修工事(林道維持補修事業)や森林整備の基盤整備となる作業道開設等に関する事業(低コスト林業推進事業)を拡充

〔 令和2年度森林環境譲与税活用事業 〕

(単位:円)

№	事業名	当初予算額		R1年度	差額 (充当額)	区分	備考
		予算額	うち充当額	充当額			
1	森林経営管理推進事業(森林管理意向確認等調査業務、浜松版森林経営管理事業)	31,320,000	31,320,000	46,616,000	△ 15,296,000	新規	R2から荒廃森林整備(浜松版森林経営管理事業)を実施
2	林業従事者助成事業	8,750,000	8,750,000	8,750,000	0	拡充	
3	林道維持補修事業	201,284,000	94,419,000	0	94,419,000	臨時	林道緊急補修工事(Cランク):86,169千円
4	低コスト林業推進事業	70,000,000	70,000,000	0	70,000,000	拡充	作業道補修の上限を500千円から1,000千円に変更
5	天竜材ぬくもり空間創出事業	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	拡充	補助率及び補助対象を拡充
6	森林整備・林業振興事業(林業・木材産業成長産業化促進対策事業、浜松型林齢平準化促進事業)	12,476,000	12,476,000	22,129,000	△ 9,653,000	新規	皆伐・再造林を支援
7	森林活用等都市間連携事業	598,000	598,000	2,130,000	△ 1,532,000	新規	都市部イベントへの参加等
8	森林環境教育推進事業	1,000,000	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	新規	環境教育の受入団体を支援
9	FSC認証材利用拡大推進事業	14,169,000	13,107,000	6,788,000	6,319,000	新規	FSCイベント実施等
10	地球温暖化対策事業(環境政策課)	100,000	100,000	100,000	0	既存	
11	浜松こども館管理運営事業(次世代育成課)	161,600,000	20,230,000	0	20,230,000	新規	浜松こども館への天竜材使用
12	森林環境基金積立金(譲与税分)	0	0	31,887,000	△ 31,887,000	—	
合計		506,297,000	257,000,000	120,400,000	136,600,000		9

1 森林経営管理推進事業 (森林管理意向確認等調査業務、浜松版森林経営管理事業)

- 昨年度に引き続き、浜松市版「新たな森林管理システム」として、適切に管理されていない森林について、森林所有者の意向確認等を実施
- 今年度はこれに加え、昨年度の調査結果に基づき、林業経営に適さない森林を強度間伐によって人工林を自然林に誘導する「浜松版森林経営管理事業」を実施

- 森林管理意向確認等調査
 - ・ 事業費:24,570千円
 - ・ 事業量:約240ha
- 浜松版森林経営管理事業
 - ・ 事業費:6,750千円
 - ・ 事業量:約15ha

4 低コスト林業推進事業

- 木材生産の低コスト化と生産力の向上を図るため、森林所有者がFSC認証林内で行う林内路網等の整備を支援
- 更なる基盤整備推進による森林整備の推進のため、上限拡充を行うとともに、事業費を増額

- 事業費
 - ・ 昨年度:50,000千円
 - ・ 今年度:70,000千円
- 上限額
 - ・ 昨年度:森林作業道補修事業の事業費の上限:500千円
 - ・ 今年度:森林作業道補修事業の事業費の上限:1,000千円

5 天竜材ぬくもり空間創出事業

- 天竜材(FSC認証材)の利用拡大のため、非住宅建築物における木造・木質化を支援し、天竜材の地産地消を推進
- これまでの制度から補助対象、補助率を拡充するとともに、FSC認証製の木製家具の導入も補助対象に追加

〔 制度の概要 〕

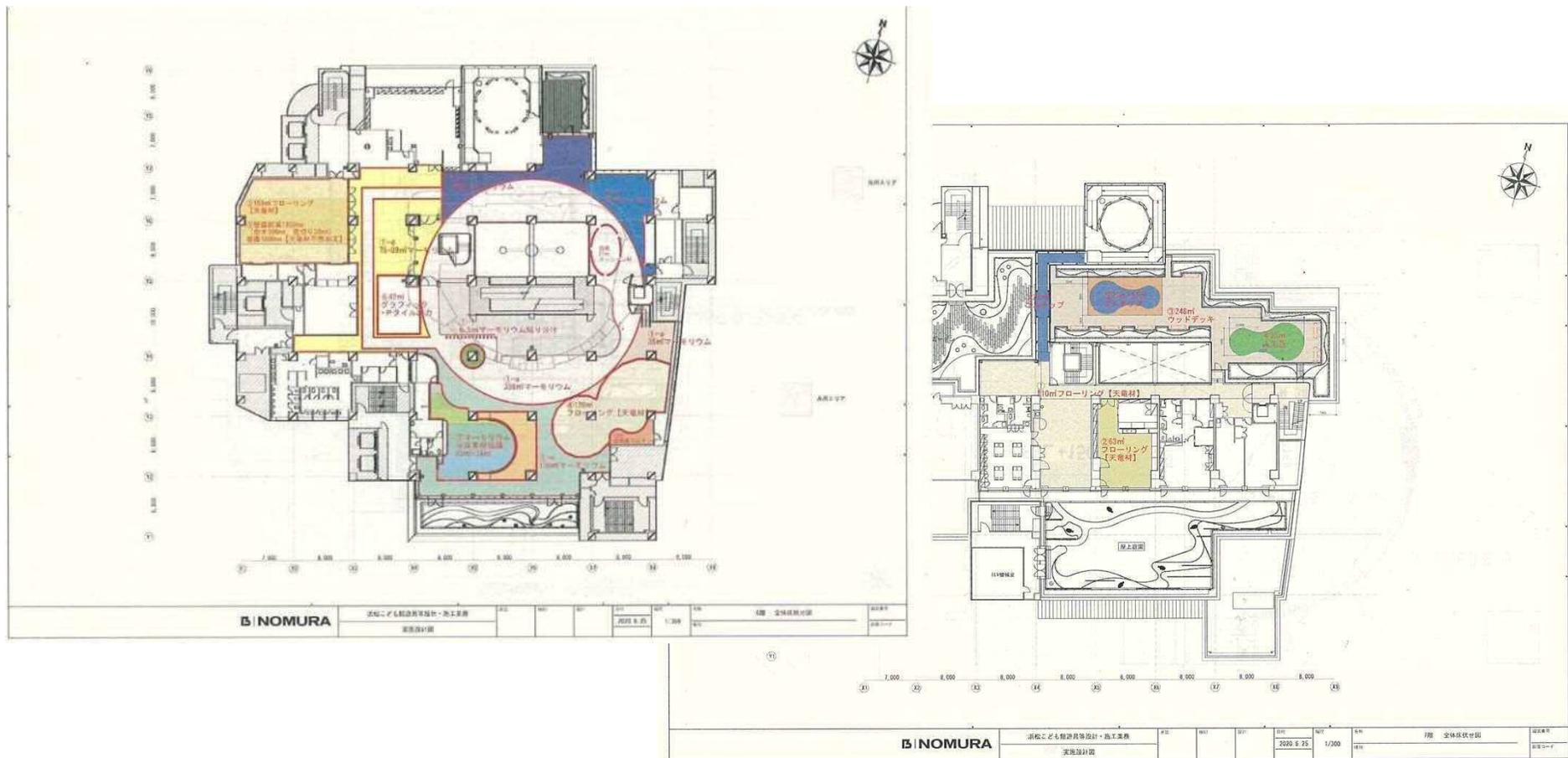
項目	非住宅建築物の新築・増改築・改修・改装	非住宅建築物への木製家具導入
補助対象者	非住宅建築物の木造・木質化を行う施主	
補助対象事業	FSC認証材を使用した非住宅建築物の木造・木質化	非住宅建築物へのFSC認証製品の木製家具の導入
補助条件	構造材または内装材、外装材にFSC認証材を20㎡以上または5㎡以上使用	<ul style="list-style-type: none"> ・FSC認証製品の木製家具を導入 ・木製家具の木質材料の8割以上をFSC認証材
補助対象経費	FSC認証材の購入費	木製家具の購入費
補助率	対象経費の2分の1(上限:200千円)	対象経費の2分の1(上限:2,500千円)



【 これまでに本制度を活用して木質化を行った店舗等 】

11 浜松こども館管理運営事業(次世代育成課)

- 遊具等の更新を進めている「浜松こども館」において、天竜材(FSC認証材)を活用
- 都市部での天竜材使用を通じて、広く市民に天竜材(FSC認証材)を紹介するとともに、子供の木育のきっかけづくりを行う
- 乃村工藝社が事業を受注し、館内の床・壁や遊具の一部に活用する方針で検討中



No	氏名	問1 川上について	問2 川中について	問3 川下について	問4 環境教育や啓発事業	問5 その他
1	鈴木 将之	森林経営管理法等に基づき、まずは <u>手入れのされていない森林の整備を進めるべき。</u>			<u>森林保全の大切さが下流域の市民に伝わっていない</u> ため、これを伝える事業が必要。	様々な関係者や有識者、広く市民の意見を聞きながら、活用策を検討すべき。
2	前田 剛志	林業、素材生産の振興等、現在ある助成、施策と並行して <u>環境税を財源とした現状にない森林環境面を重視した整備事業を導入していくべき。</u>			事業を行うためのフィールドが必要。仮に <u>市外、県外から大きな規模で人を呼べるベースとなる場所が無い</u> のが現状。個人的には動いているが連携して進めていけるとありがたい。	
3	長山 久幸	<u>木材が安すぎて森林所有者に意欲がない。</u> 山林を所有していても <u>後継者が林業に興味がない。</u> 良材を育てる費用が高い。獣害がひどい。	大径材を製材する工場が少ない。ヨーロッパに比べると川中の経費が高い。	A材や無垢材を消費するところが少ない。	木のすばらしさを理解してほしい。	輸出先に日本の木材の良さをPRする。 ※1(表外参考)
4	和田 重明	・ <u>防災・災害に強い生活道整備確保、基盤整備</u> (市道・県道・林道) ・ <u>林業担い手確保、育成、安全整備支援</u> ・林齢の平準化(防災に強い山づくり) ・資源の循環(安定生産、安定供給)	木材製品需要の拡大	公共建築物の木質化、木材利用	・将来を担う子どもたちへの木育 ・学校の木質化 ・木製椅子机導入 ・大都市圏消費者にPR、販路拡大	
5	望月 鉄彦	・ <u>林道・作業道等林業インフラ整備</u> ・ <u>林業技術者、プランナー等人材の育成</u> ・安定的な木材供給体制の整備 ・不良林分の洗い出しと整備	・原木の流通拠点(県森連天竜事業所)の機能拡充 ・B材加工施設の整備			
6	岡部 佳忠		※2(表外参考)			※3(表外参考)
7	高林 秀行		・製材工場の減少 ・若手の定着率、労働人口の増加 ・ <u>若い人に夢を与えられる職場に(給料・待遇等含めて)</u>	・木材を使ってもらおうと思っても、 <u>宣伝PR・売る方法がわからない</u> ・一般の人にとって木材がもっと身近に感じてもらう、すぐ買いに行けるような雰囲気づくり	・ <u>新入社員研修等が満足に出来ていない。</u> 昔ながらの先輩の背中を見て覚えろ、からの脱却が必要 ・ <u>業界としての研修会や若手の横のつながりの場があればいい</u> と思う	
8	鈴木 宏昭			※4(表外参考)		
9	石野 秀一	※5(表外参考)	2010年の公共建築物の木材利用の推進以来、 <u>木材の需給は増えてきているのは事実だが、製材所の減少は止まらない。</u> ① 補助率の違い(例えば九州) ② (株)ノダを参考にして、定額、必要量の協定 ③ 政令市のみ課せられる事業所税の是非	川下の意見を紳士に聞き、改善していくことが重要	環境と木材利用は分けて考えるべき。同じ土俵で話しても議論が上下左右に振れ決まらない。 今後は環境部会をつくり、後に報告してくれれば良いのでは。	我々製材業は真面目な競争がしたい。前述した <u>補助率の差、行政の入れ込み方の差をフラットにして頂き、努力が活きることを望む。</u> 林道整備を推し進めて頂き職場まで雨でも行けるようお願いしたい。FSC製品が特に受け入れられる浜松市の将来を見たい。 <u>環境税により浜松FSC山林、建物「スゴイ」を目指しましょう。</u>

No	氏名	問1 川上について	問2 川中について	問3 川下について	問4 環境教育や啓発事業	問5 その他
10	須山 宏造	森林環境譲与税充当事業の目的のひとつである「森林整備」及び「担い手の確保」に対応し、主伐材の再造林・搬出、林道・林内路網整備、装備品購入等に関して助成対策がなされている。	<u>製材・加工・流通分野では、助成制度の対策が少ない。</u>	天竜FSC材を活用したくなる適正な材料価格での販路拡大。 <u>エンドユーザーへの補助金額が少ない</u> (天竜材の家百年住居事業、天竜材ぬくもり空間創出事業等)。 森林環境譲与税充当事業の目的のひとつである「販路拡大・普及啓発」に対し、 <u>エンドユーザーが木造化・木質化したくなるようなメリットのある森林環境譲与税の使われ方が少ない。</u>	天竜FSC材の利活用(木造・木質化)促進のための更なるPR(木質耐火部材による耐火性能、中高層建築、木の効果等)。	
11	村松 博之			建築分野において、戸建住宅は木造が圧倒的に多いが、中高層建築はほとんどが非木造、低層でも非住宅は鉄骨造が多数になっている。 <u>戸建て住宅以外の建物の木造化の推進が課題</u> になると思う。 また、天竜材においては、 <u>戸建住宅で外国産や他地域産の構造材(集成材)に替え、いかに天竜材の利用を増やしていくかが課題</u> になると思う。	<u>天竜材やFSC認証材に対する木材利用者や一般住民の認知度をどのように高めるかが課題</u> になると思う。 「補助金」「公共建築」「テーマ施設」「イベント」「コンテスト・コンペ」「ネット・ICT」など	
12	鈴木 健太	※6(表外参考)	林齢の高齢化に伴い、大径材が多くなっているが、杉の大径材は使用用途が難しく材価が下がっている。今後のことを考えても <u>大径材の使用用途を作り出す施策が必要</u> 。	新型コロナウイルスの影響でC材は元より、B材も売り先確保が難しくなっている。環境面や災害対策も含めて <u>バイオマス発電所の誘致や薪ストーブの普及推進などは出来るか。</u>	当会では、 <u>メンバーの人数と活動量を考えると現在の活動量で手一杯な状態</u> 。講師として呼んで頂いた際の <u>謝礼金がもう少しあると協力頂いているメンバーの会社などにもっと快く協力頂けるのだが…。</u>	
13	山田 真弓	・林業経営に適さない森林の管理の指針が不明確である。土砂流出の危険の高い森林や集落近くの手入れが遅れた人工林など、防災や景観向上のために、優先的に管理をする必要がある森林を明らかにして、意向調査を実施すべきである。管理方法については、強度間伐だけでなく、その他の方法の研究が必要になる。講習会を開いて、環境に合わせた管理作業ができる作業者を育成することが大切である。 ・皆伐面積の上限、バッファゾーンの幅の規制や今後増えると考えられる再造林放棄地や不成林地の対策について市の見解を示してほしい。 ・林道を整備して、運材コストを下げられるようにしたい。	・値段を安くすることではなく、木材の良さによるセールスをしてほしい(木の調湿効果で、エアコンにかかる電気代が少ない。インフルエンザの発生率が下がるなど)。 ・生産者の顔が見えて、流通コストの少ない垂直連携ができないか。 ・A材の価値が上がる提案を利用側にしてほしい。 ・気軽に天竜材でDIYができるようにいつでも天竜材を買える場所を作してほしい。	・設計者が住宅助成の申請を嫌がって天竜材を使えなかったという話をよく聞くので、天竜材やFSC材を使って家を建てる工務店や建築士をHP等で紹介したり、建築業者向けに木を使う勉強会を実施するとともに、申請しやすい制度にしてほしい。 ・住宅だけでなく、公共施設や店舗・オフィス等の木造・木質化を提案できる建築士の育成が必要である。	・ <u>浜松市に広い森林があることやFSCについて知らない市民が多い</u> ので、認知度を高め、森林環境税の意義を理解する機会をつくる必要がある。 <u>森林環境教育は将来地元の木を買ってくれる消費者を育てるための教育として取り組むことが大切</u> である。幼少期における森林体験の機会をつくることや(幼稚園の遠足、小学校の林間学校など)木のぬくもりや、地元の木を使うと自分の生活がよくなることを実感できる木育を実施する必要がある。 ・小学校教員の初任者研修や、中学の技術教員の勉強会などで林業を知ってもらう機会をつくることで子ども達に伝えられるようになるので、 <u>林業や木材業界だけでなく教育委員会との連携が必要</u> 。	※7(表外参考)
14	松下 克己			木材利用のために消費者、中区のような都市生活者の暮らしにいかに「木」が入っていくのか？暮らしの中に入る商品の積極的な展開が必要。また、市内、近郊自治体の消費者と森林、林業の接点をどう作っていくのか？「観光」という観点からのアプローチも必要ではないか？	<u>個人レベルの活動が中心となっている</u> 。そのため、 <u>運営や規模に限られてしまっている状態</u> 。様々な個人が関係を持ちたり、利用したりするような公共の場が <u>あったら良いか</u> と考える。例えば、林業地を横断する天竜ロングトレイル。これを中心に、個人活動が受け入れ体制を構築していく(環境教育、飲食、宿、観光など)。	川上、川中、川下それぞれのそれぞれに対する理解がまだまだ不足と思う。何か、 <u>象徴的な「コト」を起こすことにより、互いの理解が深まる場が出来れば良い</u> 。 また、象徴的な人材などを含め、積極的に「浜松の森、林業」をPRしていく必要がある。

No	氏名	問1 川上について	問2 川中について	問3 川下について	問4 環境教育や啓発事業	問5 その他
----	----	-----------	-----------	-----------	--------------	--------

- ※1 一定の地域(浜松市全域規模)において、木材利用を向上させるためには、川下の多様なニーズに応えられる川中の体制の充実が最も優先される事項。川中の体制が充実されると、原材料の利用幅を広げ川上で生産された木材の利用率を向上させることになる。
 木材の輸送コスト(金額的・時間的)は、川上の生産コストに直結していることは、県東部の大手合板工場への納材実績が東高西低の状態でも推移していることから見てとれる。
 一定の地域(浜松市全域規模)において、川中(製材・加工・流通)の体制強化が実現し、地産地消の社会の到来は、川上の活性化にも大きな力となる。次の段階、もしくは並行的に、地産地消により生産された商品を地産外商する川下の体制強化が重要。
川中、川下は、外見上商業的イメージが強く、そこに補助金を投入することは、1企業の後押しをするために補助金を使うように見えるが、川上の活性化(素材生産量の増加、保育事業量の増加)を直接的にけん引するための重要な手段。
- ※2 川上・川中・川下の連携は、以前より川上・川中は良くなっているが、川下との繋がりは難しい状態。
 天竜材(FSC認証材)の利用を拡大させるためにも、もっと川下との交流が必要だと思うが、現状、製材の多くはそこまでのパワー(営業力)がない。
 そこで川上から川下までをコーディネートする人・組織を確保することができればと思う。
- ※3 天竜材の家百年住居の事業に使用される木材は「しずおか優良木材」と同等の品質基準を満たした材となっているが、「優良木材認定工場」は、県内に24社のみとなっており、非常に厳しい基準。確かに基準を高くすることは必要だと思うが、その厳しい基準から外れた製品も天竜材であり、FSC認証材であり、使い方によっては十分使用できる材だと思う。全国規模の大型工場で製造している材と同じ基準の材を使用することはベストかもしれないが、「浜松独自」の木材品質基準なども考えてほしい。また、節のある材の利用を促進していくことも必要。
- ※4 地域材の価格が外材よりも高価。地域材が利用したくても高価のため、利用できないのが現状。木材需要拡大事業等の補助金制度もハードルをもう少し低くすれば地域材の利用も高まる。
 現状、補助金を使って地域材で家を建てた場合と外材使用しての金額が、外材の方が安価。また、補助金も地域材を使用する建築会社にも何らかの形で補助金があれば、販売意欲も高まる。
- ※5 各種補助金により森林整備、木材生産共に進んできていたことは大変有意義であり、森林経営計画制度の力によるものと考えられる。しかし、森林経営計画により森林組合の寡占が進み新規参入のハードルが高くなっている。組合の作業員として参入することは可能だが、森林をクワイエット出来る人材の参入を阻害している可能性がある。ハードルをさげる事は出来ないのか(森林経営計画の面積)。
 ・森林整備→整備する林地が奥地になり山主が分からない、場所が分からない、林地まで行けない。
 ・木材生産→コロナショックによる木材需要の減退と材価低迷。売り先の集中は恐ろしい。
 ・林道作業道の整備の推進→仕事をする場所の道を直しながら行く&道を直しながら搬出するのは大変非効率。
- ※6 1 現状、獣害対策は防除柵を主に対策が行われているが、柵は時間経過などによる破損や予期せぬ場所からの侵入等で設置するだけでは100%の防除が難しい。そのため、定期的な防除柵の見回り、修復も必須になっており大きな手間がかかっているので、そちらに対して補助はできないか。
 2 狩猟者の高齢化に伴い今後の頭数調整も難しくなってくるため、獣害の防除だけでなく新規狩猟者の育成と更なる頭数削減についてもご相談させて頂きたい。
 3 現在、事業体に対しての補助については多数あると思うが、自伐林家に対しての補助が少ないため、同じような補助を自伐林家にも使わせてもらえるとありがたい。特に、自伐林家、個人事業主は一人でやっている方も多く、一度の怪我が大きなものになりやすい傾向がある。年間出材量がある程度見込める、または事業量が認められる個人事業主、自伐林家に対しては、安全装備の補助をお願いできないか。
- ※7 ・家を建てる時以外で天竜材に触れる機会がないので、アーティストや家具職人を地域おこし協力隊として採用、アーティストインレジデンスを活用するなど、ものづくりに力を入れたい。その際には、購買意欲のある女性のニーズを反映してほしい。天竜材を使った家具やおもちゃなどの展示会やコンペがあったら面白い。
 ・担い手は森林事業者だけでない。再造林するかどうかを決めるのは所有者なので、このまま立木価格が下がり続けては所有者の意欲が無くなり、再造林放棄地が増えてしまう。木材価格を上げるための施策を考えたい。
 また、森林管理者は自社の仕事場を確保することだけを考えるのではなく、浜松市の森林全体を考える人材を育てることが必要である。森林整備の計画作成については浜松市森林・林業ビジョンでは森林組合が全体的な計画を立て、施業を組合と民間事業者が分担するというイメージ画があった。組合と民間事業者が陣地取りをするような現状をどのように変えていけるか考える必要がある。
 ・担い手が自主的に勉強できる場をつくるためにも、研修会の開催や視察等に助成があると良い。
 ・広葉樹を活かした防災・景観の森づくりを推進したい。コンクリートによる砂防ダムや法面保護は約30年ごとに作り直さなければならないので、水や岩が多いところに生えるカエデ類など土地にあった樹種を導入する。道路や電線の近くは中低木の樹種を残すようにして台風時の被害を軽減する。
 ・精油・天然香料・漢方薬・在来植物で作ったお茶など、浜松の特産物になる林産物の開発をするとよい。
 ・マイクロツーリズムとして、地元の人に浜松の森林や林産物を楽しんでもらえる機会をつくり、森林サービス産業を発展させたい。
 ・ICT技術の活用(企業からの事業提案、森林の資源量把握、獣害対策など)
 ・山林を売りたい人と買いたい人のマッチング(遊び場として小規模な森を買いたい人が増加している)